

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 5年 3月31日

学)かえで学園 かえで幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・神さまに祈り、生かされていることを感謝し、人々を思いやる心を養う
- ・さまざまな事柄に感動する心、探求する心、創造的に関わろうとする心を養う
- ・ひとりの人間として、受け入れられていることを喜び、感謝をもって、人と自分を愛する心を養う

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

年主題「つながって～今、わたしを生きる」

子ども達一人一人に寄り添い、生活や発達に即した援助を考える

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教員の共通理解を図り、保育の質を高める	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育の原点、共に育ち合いながら、生きる力がつくことを願って、一人一人に寄り添っていくことを確認しながら、教員同士も協力しながら毎日の保育を進めていくことができた。 ・子どもも教師もお互いを思いやる日々を過ごすために、言葉が必要なことを確認し、「言葉にする」を念頭に置いていたがなかなか難しかった。 ・3歳児のクラス担任が年度途中に退職となり、非常勤の教師が急遽担任となる。いろいろなことを園全体で進め、教師のまとまりが出来た。
2	子ども一人一人に寄り添い、生活や発達に即した援助を考える	B	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数保育を利点として、園全体、すべての教師で子どもたちに接し、保育することができた。 ・年少組では当初の担任の迷いや力不足が目立ってクラスの問題が出そうになったが、その後の教師の活躍で丁寧な見取りが出来た。年長組は障がいをもった子が4人もいたので、教師の手が足りないところもあったが、園全体で関わることで日々、落ち着いた生活が出来た。そして、クラス活動も意欲的な取り組みなど、発達に応じた学級経営がなされた。 ・発達の遅れのある子や障がいがある子に対する援助を園全体（子どもも教師も保護者も）で関わる事ができた。
3	家庭と連携して、共に子育てをする 小学校生活へのなめらかな継続を図る	C	<ul style="list-style-type: none"> ・登園の少しの時間でも母親と言葉を交わし、園長、主任が園生活、家庭生活、家族問題の相談に応じ、子どもの健全な生活を確保することができた。 ・二つの小学校の間にあり、それぞれ他の園との関係があるので連携が取れず、これからの問題である。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	小さい幼稚園であることを充分活かし、その時その時の必要に応じながらクラスより園全体で動いた。その上、クラスでは発達にあった活動も行っていった。コロナウイルス感染予防のための方策も細やかに動くことが出来た。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	行事の見直し	コロナ禍の中で、出来なかったことが多かったが、それが必要だったかを考える時となった。コロナの対策をしてやれることが増え、形を変えたり、縮小したりして楽しむことが出来た。
2	記録の取り方	それぞれの教師に任されている記録だが、指導計画、一人一人の子どもの活動の記録など、教師が持ち寄り、学び合う事が必要だ。
3	学校安全マニュアル	いろいろな事件、事故を踏まえ、マニュアルの見直しをすることが出来た。しかし、書類として残しておくことでなく、皆で学び合い、訓練などを通して、教師一人一人が理解していくことがこれからの課題である。

学校関係者評価委員会の評価

コロナ禍の中、子ども達の「マスク無し」の生活を守るために、今年も、保護者の来園も時間を変えたり、人数の制限をしたり、配慮しての一年だったので、評価委員の参観はできなかったことは残念だった。

静岡ホームの子ども達、そして障害児の人数が多く、教師の負担が心配です。でも、明るく接している姿をいつも見ることができ、温かい気持ちになった。今後とも、かえでらしい幼稚園でがんばってほしい。